

# ケニアの社会発展と環境改善に大きな役割を果たすEM



スラム内の排水路は廃棄されたビニール袋が散乱し、ゴミにふさがれた場所では排水が氾濫し、悪臭はもちろん、衛生面も大きな問題となっています。

次なるステップは  
アフリカ全体の問題解決へ

現在はケニア保健省、EM研究機構、アフリカ児童基金の会（ACEF）のプロジェクト合意のもと、ケニア環境省、ナイロビ西刑務所の協力も得られ、プロジェクト・第二フェーズが進められています。第二フェーズでは、①ナイロビダムの浄化とホテアオイの堆肥化、②スラム内の環境改善の講習会、③廃ビニールの再利用や生ごみの堆肥化など、EMを活用した活動が進められています。将来的には本プロジェクトをモデルとして、大小合わせると数百あると言われるアフリカのスラムの環境を改善していくことを目的としています。

また、本プロジェクトとナイロビ西刑務所の連携がきっかけとなり、ケニアにある89ヶ所の刑務所で町の生ゴミをEMで堆肥化する計画を進めており、食料の増産と受刑者の刑期終了後の新しい人生更生につながることを期待されています。併せてACEFの事務所があるエンブの町をはじめとして、全国の市町村でも市場などから出る町の有機ゴミを堆肥化する計画も進められています。

アフリカの開発とともに  
ますます期待されるEM

ケニアは東アフリカ地域のEM普及の拠点地域として、農業学校や大学での教育、特産の紅茶や切り花などへの技術応用なども進められ、目ざましい成果を各地であげています。今回ご紹介した地域問題の改善も含め、豊かな社会づくりにEMが貢献している事例は、周辺諸国からも注目が集まり、活用の輪が広がっています。さまざまな発展の可能性を秘めたアフリカは、地球レベルで見ても今後の重要エリア。それだけにEMが担う役割も大きな意義をもつものと言えるでしょう。



ケニアの広大な農地。

農業、教育に加え  
社会・環境分野でも貢献

前号でもお伝えしたように、ケニアでのEM普及活動は、NPO法人アフリカ児童基金の会（ACEF）の現地に根付いた活動を土台に、(株)EM研究機構の協力により進められています。その活動は農業や教育分野にとどまらず、ケニア政府との共同プロジェクトなどによってさまざまな分野に広がっています。今回はその一例として、社会問題となっているスラムの環境改善等にEM技術が活用されているケースをご紹介します。

スラム改善計画において  
EMを随所に活用

キベラスラムはケニアの首都・ナイロビに隣接した東アフリカ最大のスラムです。2.5km<sup>2</sup>という地域に80万人以上の人が生活し、職を求めて近隣の国や農村部からの人口の流入は続いています。正確な人口は把握しきれず、実際には120万人以上が住んでいるとも言われています。整備されることなく建てられたトタンの掘立小屋のような家には下水道やトイレなどはなく、多くの家庭は公共の水道やトイレを使用しています。家庭からの排水も家の間

を流れる排水路に流れこんで悪臭やハエの発生が日常化し、衛生的に非常に悪い条件のなかで多くの人が生活しています。

キベラスラム環境改善プロジェクトのスタートのきっかけは、2002年。比嘉照夫教授はケニア訪問の際に、EMテクノロジー社の塩尻安夫氏とこのスラムの中を視察したことに始まります。すべての問題を抱えるスラムを見た比嘉教授の「私はこの問題をEMでやりたかった」という言葉がきっかけとなり、翌年にはケニア保健省、EM研究機構、アフリカ児童基金の会（ACEF）、社団法人日本WHO協会沖縄支部が合意。(株)イーエム総合ネット（現・(株)EM生活）の支援によってプロジェクト・第一フェーズがスタートしました。



キベラスラムの風景。家は隙間なく建てられています。



スラムからの排水が流れ込むナイロビダムは、悪臭を放ちダムは一面ホテアオイで覆われていました。ホテアオイは回収され、EMとEMホカソで処理して優良な堆肥を製造しています。作業はナイロビ西刑務所やケニア環境省の協力で行われています。



ナイロビダムのホテアオイより作られたEM堆肥の山。環境省の協力により今ではパフォーシベルも導入され、大量の堆肥が製造されています。



住宅の側面を用いたEMの広告。



ナクル湖国立公園内のフラミンゴの大群。数年に一度、フラミンゴの大量死が起こっており、環境汚染や湖の水質悪化が危惧されています。



ナクル湖国立公園内の動物(シマウマ)。